

HL-KM

STIHL



2 - 18 取扱説明書



目次

1	コンピツール.....	2
2	はじめに.....	2
3	使用上の注意および作業方法.....	2
4	本機の使い方.....	6
5	承認されたコンピエンジン.....	8
6	コンピツールの取付け.....	9
7	運転準備.....	9
8	カッター バーの調整.....	10
9	ハーネスの取付け.....	11
10	エンジンの始動と停止.....	12
11	ギヤーボックスの注油.....	13
12	機械の保管.....	14
13	整備表.....	14
14	目立ての注意事項.....	14
15	磨耗の低減と損傷の回避.....	14
16	主要構成部品.....	15
17	技術仕様.....	15
18	整備と修理.....	16
19	廃棄.....	16
20	EC 適合証明書.....	16
21	UKCA 適合宣言.....	17
22	アドレス.....	18

1 コンピツール

STIHL コンピシステムでは、パワーツールとしてさまざまなコンピエンジンやコンピツールを組み合わせたことができます。本取扱説明書では、コンピエンジンとコンピツールで構成される本体一式をパワーツールと呼びます。

そのため、パワーツールにはコンピエンジン用とコンピツール用の各取扱説明書が必要です。

必ず**両方**の取扱説明書を読み、内容を理解してからパワーツールの使用を開始し、取扱説明書は以後の参照用に安全な場所に保管してください。

2 はじめに

2.1 シンボル マークについて

マシンに表示されているシンボルマークは、本取扱説明書で説明されています。

2.2 段落の前に付いたシンボルや数字



人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

2.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

そして、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

油煙機白紙使用
紙はリサイクル可能です。

3 使用上の注意および作業方法



このヘッジトリマーはブレード速度が非常に速く、カッティングブレードは非常に鋭利で、ツールのリーチが長いいため、作業には特別な安全対策が必要です。



初めて本機を使用する前に、両方の取扱説明書（コンピエンジンおよびコンピツール）を注意深くお読みになり、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を順守しなければ生命を脅かすような怪我を負う可能性があります。

パワーツールは、本モデルとその取扱いに精通している人以外に譲渡したり貸与したりしないでください。必ずコンピエンジンとコンピツールの取扱説明書の本機と共に手渡してください。

ヘッジトリマーは、生垣、低木、茂みや灌木などを切断するためのみに使用してください。

本機をこれ以外の目的には使用しないでください - **事故の恐れがあります!**

STIHL が本パワーツールでの使用を承認した、または技術的に同等のカッティングブレードやアクセサリーのみをご使用ください。これに関してご不明な点がございましたら、サービス店にお問い合わせください。

高品質のツールまたはアクセサリーのみを使用してください。これを怠ると事故やパワーツールの損傷につながる恐れがあります。

STIHL は、STIHL 純正のツール、カッティングブレードおよびアクセサリーのご使用をお勧めします。これらは、お客様の製品およびご使用にな

る性能要件に合わせて、特別に設計されています。

安全性が損なわれる可能性がありますので、いかなる方法でも機械を改造しようとししないでください。STIHLは、承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては一切保証を行いません。

本機の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷する恐れがあります。

3.1 衣服と装備

規定に沿った衣服と装備を身に付けてください。



衣服は、適切なもので、作業の妨げにならないことが必要です。作業用のコートではなく、身体にぴったりしたコンピスーツの作業服を着用してください。

枝、藪、機械の可動部などに引っかかるものを、身に付けしないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けしないでください。長い髪はまとめて、肩より上になるように固定します。



靴底が滑らず、頑強な作りの鋼鉄製トウキャップのついた保護ブーツを履いてください。



警告



目の負傷の危険性を低減するため、EN 166 基準（カナダは CSA Z94 基準）に準拠したしっかりとフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが正しくフィットしていることを確認してください。

「自分専用」のイヤーマフ（防音用耳栓など）を着用してください。

落下物で頭部を負傷する危険があるときは、安全ヘルメットを着用してください。



耐久性の高い素材製（革など）の作業用手袋を着用してください。

STIHLでは、作業者の防護のために各種の作業服や装備をご用意しています。

3.2 パワーツールの運搬

必ずエンジンを停止してください。

短い距離を運搬する場合でも、必ずブレード鞘を取り付けてください。

調整可能なカッターブレードを搭載したツールの場合：カッターブレードをカチッと音がするまではめ込みます。

搬送位置が定義されているツールの場合：カッターブレードを搬送位置にしてからカチッと音がするまではめ込みます。

パワーツールのシャフトでバランスを取って、カッティングブレードが後ろ向きになるように持ち運びます。

高温の機械部品とギアハウジングには触れないでください - **火傷する危険があります！**

車両を使用して運搬する場合：転倒、破損、燃料漏れを防ぐために、パワーツールを適切に固定してください。

3.3 始動前

パワーツールが操作の安全性を確保できる状態であることを確認します - コンビエンジンとコンビツールの取扱説明書に記載されている関連項目を参照してください：

- カッティングブレード：正しく組み立てられており、しっかりと固定され、完璧な状態（清潔、滑らかに動作、変形なし）で、研磨されており、STIHL 樹脂溶剤（潤滑剤）が吹き付けられていること
- 調整可能なカッターブレードが搭載されたツールの場合：調整装置は始動時の所定位置にロックされていること
- 搬送位置が定義されているツールの場合（カッターブレードがシャフトに折りたたまれている）：搬送位置では絶対にツールを始動しないでください
- 操作部や安全装置に改造を加えないでください
- ハンドルは清潔で乾いており、オイルや汚れが付着していないこと - これはパワーツールを安全に操作するために重要です
- 身体の大きさに合わせてハーネスとハンドルを調整します。「ハーネスの取付け」の章を参照してください。

パワーツールは、操作の安全性が確保されている状態でのみ操作することができます - **事故の恐れがあります！**

ハーネス使用中に緊急事態に備えて：機械を素早く取り外す練習をしてください。この練習中に本機を地面に投げ下ろして損傷させないように注意してください。

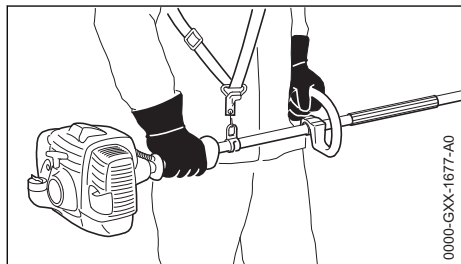
3.4 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルを保持します。

安全な姿勢を取り、カッティングブレードが常に身体とは反対の方向を向くようにパワーツールを操作します。

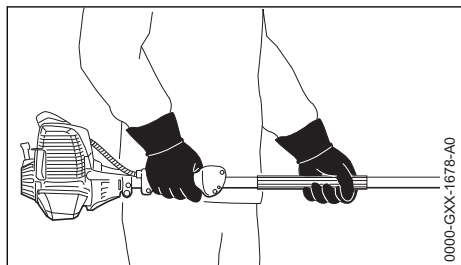
仕様によっては、機械の重量を支えるハーネスを使用してツールを持ち運ぶことができます。

3.4.1 ループハンドル付きのツール



コントロールハンドルを右手で、シャフトのハンドルを左手で握ります（左利きの場合も同様）。

3.4.2 ハンドルホース付きのツール



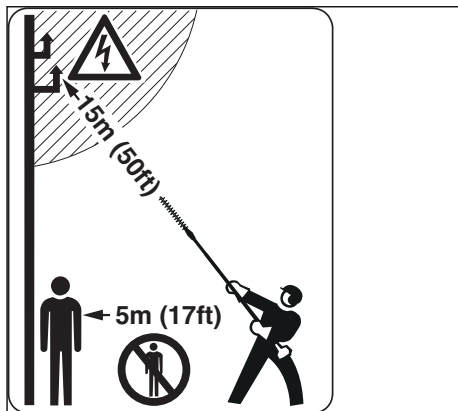
コントロールハンドルを右手で、シャフトのハンドルホースを左手で握ります（左利きの場合も同様）。

3.5 作業中

差し迫った危険や緊急事態が発生した場合は、直ちにスライドコントロール / 停止スイッチ / 停止ボタンを **0** または **STOP** にセットして直ちにエンジンを停止します。



このパワーツールは絶縁されていません。送電線から距離を保ってください - 感電による**生命の危険があります!**



作業者以外、半径 5m 以内に立ち入ることは禁じられています - 動作中のカッティングブレードおよび落下する削りくずによって**怪我をする危険があります!** 他の物体 (車両、窓) からもこの距離を保ってください - **物的損害が生じる危険があります!**

カッティングブレードの刃先と送電線との間には少なくとも 15 m の離隔距離を保ってください。高電圧の場合、エアギャップが大きくても電流フラッシュオーバーが生じる可能性があります。送電線のすぐ近くで作業する場合は、必ず電源を切ってください。

スロットルトリガーを放した時にカッティングブレードがそれ以上動かないように、エンジンを正しくアイドルしていることを確認してください。アイドル調整を定期的に点検および修正してください。アイドル状態でもカッティングブレードが動いている場合は、サービス店に修理を依頼してください。アイドル調整を定期的に点検および修正してください。

カッティングブレードに注意します - 生け垣の見えない部分は切らないでください。

高い生け垣をカットするときは、背後に人がいる可能性があるため十分に注意してください - 事前に確認してください。



動作中はギアが熱くなります。ギアハウジングには触れないでください - **火傷する危険があります!**

滑りやすい場所、濡れた地面、雪、傾斜や凹凸のある地面などに注意してください - **スリッパする危険があります!**

落ちてきた枝や灌木および削りくずを作業エリアから片付けます。

切り株、根などの障害物に注意してください - **つまづく危険があります!**

常にしっかりと安定した足場を確保してください。

3.5.1 高所で作業する場合：

- 常にリフトバケットを使用してください。
- 決してはしごや枝に乗って作業しないでください。
- 決して足場の不安定な場所で作業しないでください。
- 決して手で作業しないでください。

イヤープロテクター（聴力保護具）を装着している場合は、より高い注意力が必要です - 危険を告げる音（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなります。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください - **事故の恐れがあります！**

日中で十分な視界のある場所で、冷静かつ思慮深く作業してください。他人に危険が及ばないように慎重に作業します。

カッティングブレードが損傷しないように、生け垣や作業エリアを確認します：

- 石、金属部品や固形物を取り除いてください。
- 地面の近くで作業するときなど、カッティングブレードの間に砂や石が入らないようにしてください。
- ワイヤフェンスを使用している生垣の場合、カッティングブレードがワイヤーに触れないようにしてください。

通電用ケーブルに触れないようにしてください - 電気ケーブルを中断しないでください - **感電の恐れがあります！**



エンジンがかかっているときは、カッティングブレードに触れないようにしてください。カッティングブレードが物体でブロックされている場合、エンジンを直ちに停止します - まず物体を取り除きます - **ケガをする危険があります！**

カッティングブレードがブロックされた状態で、同時にエンジンを加速させると負荷が増加し、エンジンの作動速度が減少します。これにより、クラッチが連続的にスリップして過熱状態になり、重要な機能部品（クラッチ、プラスチック製ハウジング部品など）の損傷につながります - その結果アイドリング時に動いているカッティングブレードなどによって - **ケガをする危険があります！**

パワーツールに、設計強度を超える異常な負荷（激しい衝撃や落下など）がかかった場合は、作業を続ける前にパワーツールが操作の安全性を確保できる状態にあることを必ず確認してください - 「始動前」の項目も参照してください。特に、安全装置が正しく機能していることを確認し

てください。お使いのパワーツールに損傷がある場合は、絶対に使用しないでください。ご不明な点がございましたら、サービス店にお問い合わせください。

粉塵が多く発生する生け垣、または汚れの酷い生け垣では、必要に応じてカッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けてください。これにより、カッティングブレードの摩擦、植物の汁の侵食、汚れ粒子の付着を大幅に軽減できます。

カッティングブレードは、短い間隔で定期的な点検し、顕著な変化が生じた場合には直ちに点検してください：

- エンジンを停止します
- カッティングブレードが停止するまで待ちます
- 状態としっかりと固定されているかどうかを確認し、ひび割れに注意します
- 切れ味に注意します

3.6 作業後

作業終了後または本機から離れる前にエンジンを停止してください。

パワーツールの埃や汚れを落とします - グリース溶剤は使用しないでください。

カッティングブレードに STIHL 樹脂溶剤を吹き付けます - スプレーが均一に塗布されるようにもう一度エンジンを短く始動します。

3.7 整備と修理

定期的な本機を整備してください。コンビツールおよびコンビエンジンの取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、スチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するため、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください。**

4 本機の使い方

4.1 刈り込み時期

生垣の切断に関する国や市町村の規則と規制を遵守してください。

近隣住民が慣習的に休息を取る時間中は、ヘッジトリマーを使用しないでください。

4.2 切断の順序

根の切断が必要な場合は、数回に分けて少しずつ切断してください。

最初に太い枝を剪定ばさみで切断します。

最初に生垣の側面を、次に上側を切断します。

4.3 廃棄

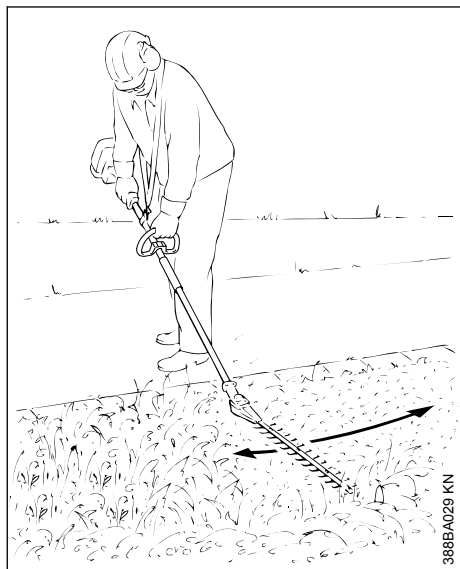
切断した枝は、家庭用ゴミと共に捨てないでください - 堆肥にすることができます。

4.4 準備

- ▶ 調整可能ギアボックス: カッターバーを必要な角度に設定します。
- ▶ ブレード鞘を取り外します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ハーネスを使用するとき: ハーネスを着用し、機械に取り付けます。

4.5 作業方法

4.5.1 水平切断 (カッターバーに角度を付けて使用)



388BA029 KN

立った位置から地面近くを刈り込みます (低木等)。

生垣に沿って移動しながら、カッターバーを上下に振ります - カuttingブレードの両刃を使用し、カッターバーを地面に当てないでください。

4.5.2 垂直切断 (カッターバーに角度を付けて使用)

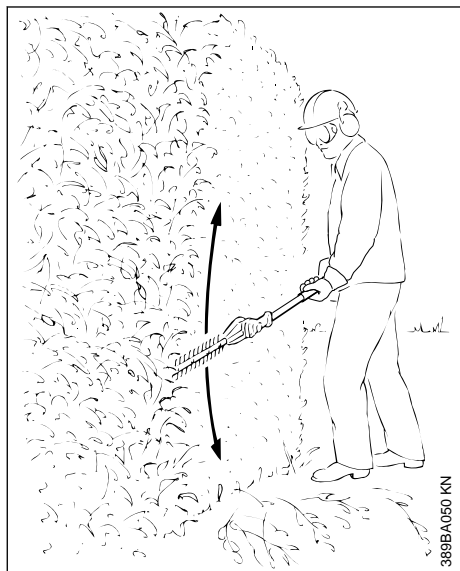


388BA030 KN

生垣のすぐ横に立たずに刈り込みます (例えば、作業者と生垣の間に花壇があるとき)。

生垣に沿って移動しながら、カッターバーを弓形に上下に振ります。カuttingブレードの両刃を使用します。

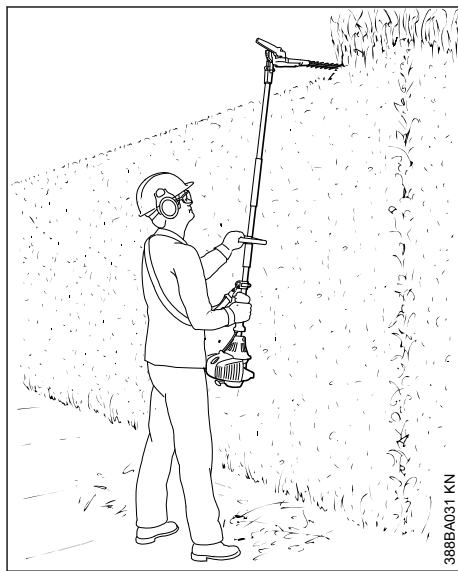
4.5.3 垂直切断 (カッターバーをまっすぐにして使用)



きわめて遠くまで届き、他の補助器具を使う必要がありません。

生垣に沿って移動しながら、カッターバーを弓形に上下に振ります。カッティングブレードの両刃を使用します。

4.5.4 頭上の切断 (カッターバーに角度を付けて使用)

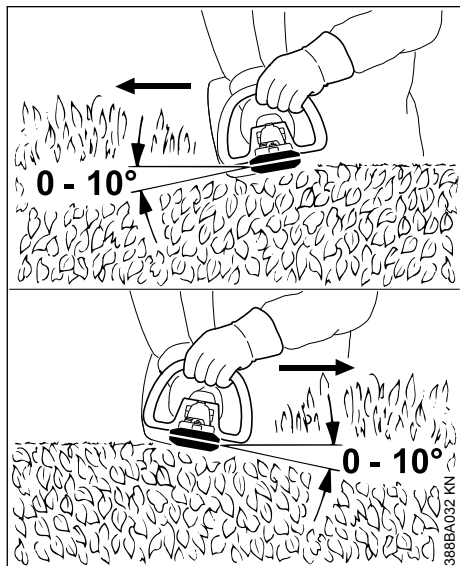


ヘッジトリマーを垂直に保持して、できるだけ遠くに届くように弓形に振ります。

! 警告

頭の高さよりも上の切断作業は、どの作業位置でも疲れます。事故が起きる危険を低減するために、そのような位置の作業は短時間に限定してください。十分な作業範囲を確保しながら（肩掛けベルトを使用して）機械を低く、疲れづらい位置に保持できるように、調整型カッターバーの角度を最大に設定します。

4.5.5 水平切断（カッターバーをまっすぐにして使用）



ヘッジトリマーを水平に振りながら、カッターバーが0~10°の角度になるよう保持します。



切断した枝が地面に落ちるように、カッターバーを生垣の外側に向けて弓形に振ります。

推奨事項：胸の高さよりも低い生垣だけを切断してください。

5 承認されたコンビエンジン

5.1 コンビエンジン

STIHL 社が供給するか、STIHL 社がコンビツールとの使用を明示的に承認したコンビエンジンのみを使用してください。

このコンビツールは、次のコンビエンジンとの組み合わせのみで使用することができます：

KM 56 R、KM 85 R¹⁾、KM 94 R、KM 111 R、KM 131、KM 131 R、KMA 130 R、KMA 135 R、KM 80.0 R、KMA 120.0 R、KMA 200.0 R

! 警告

バイクハンドルを装着したコンビエンジンに、HL-KM 0°を取り付けることは禁じられています。

5.2 分離シャフト付き刈払機

このコンビツールは、分離シャフト付きの STIHL 刈払機（基本パワーツール、T モデル）にも装着できます。

そのため、このコンビツールは次のパワーツールモデルでも使用が許可されています：

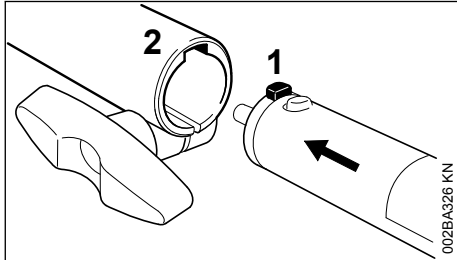
STIHL FR 131 T



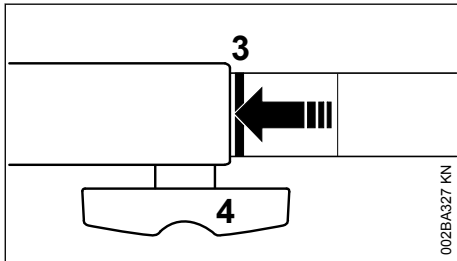
警告

パー (バリアパー) の使用方法については、パワーツールの取扱説明書を参照してください。

6 コンビツールの取付け



- ▶ ドライブ チューブの突出部 (1) をカップリングスリーブのスロット (2) に、止まるまで押し込みます。



適切に取り付けると、赤線 (3) (矢印で示した部分) がカップリングスリーブの端とぴったり重なります。

- ▶ スターノブ (4) をしっかり締め付けます。

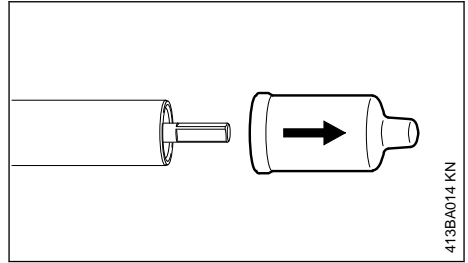
6.1 コンビツールの取外し

- ▶ ドライブ チューブを取外すには、上記と逆の手順を行います。

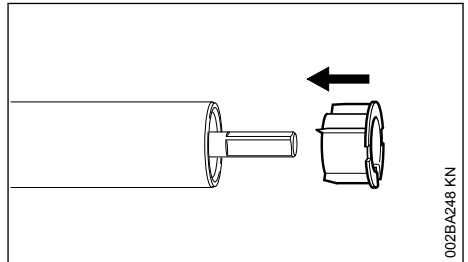
7 運転準備

7.1 プロテクトキャップの取り外し

コンビツールまたは基本パワーツールのドライブチューブの端にキャップが取り付けられている場合：



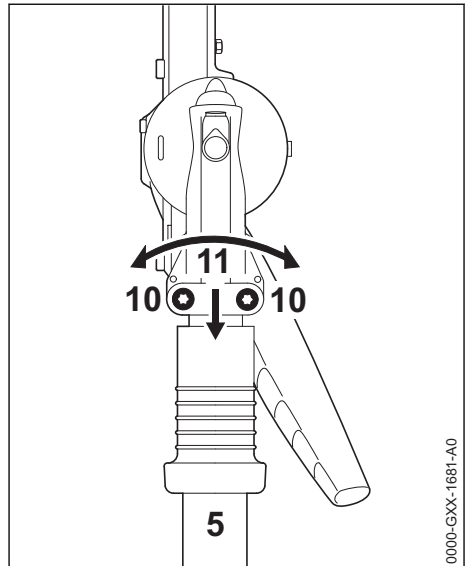
- ▶ ドライブチューブの端からプロテクトキャップを引き外し、安全な場所に保管してください。



キャップを引き外すときに、ドライブチューブからプラグが外れた場合：

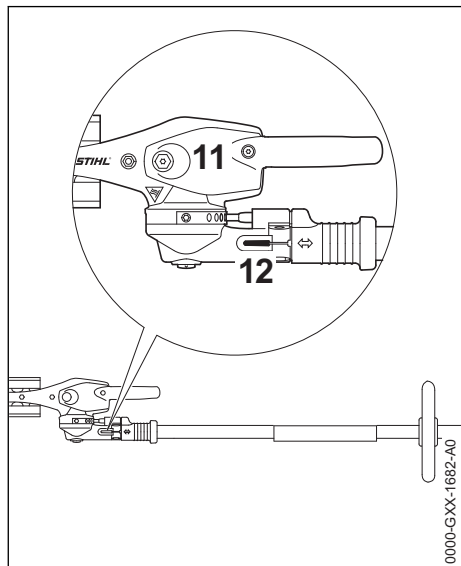
- ▶ プラグをドライブチューブに止まるまで押し込みます。

7.2 ギアボックスの取り付け



- ▶ クランプスクリュー (10) を緩めます。

- ▶ ギアボックス (11) を押し、ドライブチューブ (5) に挿入します。その際は、必要に応じてギアボックス (11) を左右に回します。

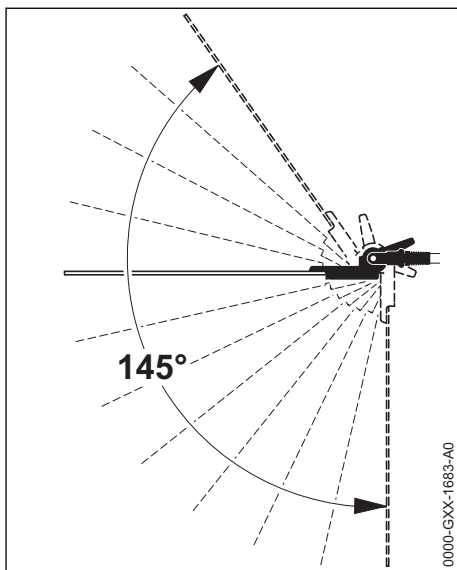


ドライブチューブの端をクランプのスロット (12) を超える位置まで差し込んだら：

- ▶ ギアボックス (11) を止まるまで完全に押し込みます。
- ▶ クランプスクリューを緩く締めます。
- ▶ ギアボックス (11) をパワーヘッドに合わせます。
- ▶ クランプスクリューを確実に締め付けます。

8 カッターバーの調整

8.1 角度アジャスター - 145°



カッターバーの角度は、上方向では 0° (まっすぐ) から 55° までの間で 4 段階、下方向では 0° から 90° (下側垂直位置) までの間で 7 段階に調整することができます。そのため 12 段階の作動位置を選択することができます。



警告

ケガの危険を低減するために、この調整は、カッティングブレードが停止しているとき (エンジンがアイドリング回転中) だけ行ってください。



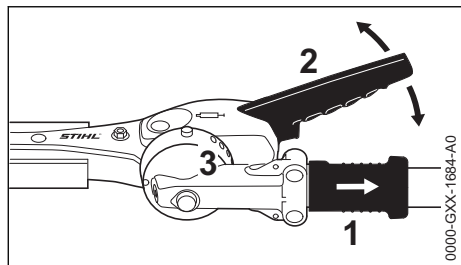
警告

作業中はギアボックスが熱くなります。火傷の危険を低減するために、ギアボックスに触れないでください。



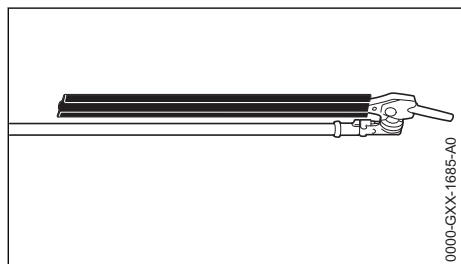
警告

ケガの危険を低減するために、調整中は絶対にブレードに触れないでください。



- ▶ スライディングスリーブ (1) を引き戻し、レバー (2) を使用してジョイントを穴 1 つまたは数個分だけ調整します。
- ▶ スライディングスリーブ (1) を放し、ロックピンがクオドラント (3) にかみあっていることを確認します。

8.2 持ち運び位置



カッターバーは、ドライブチューブに対して平たく折り畳め、所定の位置にロックでき、コンパクトに持ち運べます。



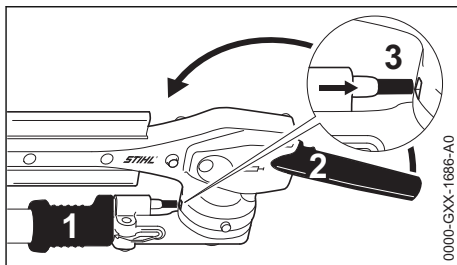
警告

ケガの危険を低減するために、必ず停止スイッチを押してエンジンを切り、ブレード鞘を取り付けてから、カッターバーを持ち運び位置に移動させるか、持ち運び位置から通常作動位置に移動させます。



警告

作業中はギアボックスが熱くなります。**火傷の危険を低減するために**、ギアボックスに触れないでください。

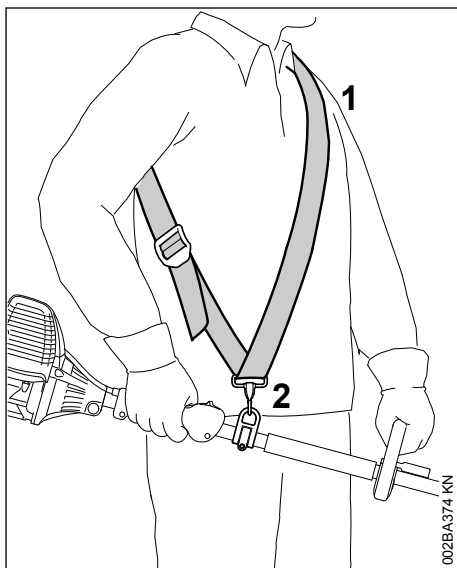


- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ブレード鞘を取り付けます。
- ▶ スライディングスリーブ (1) を引き戻し、レバー (2) を使用してジョイントを上側 (ドライブチューブの方向) に回転させ、カッターバーをドライブチューブに沿わせます。
- ▶ スライディングスリーブ (1) を放し、ロックピンがクオドラント (3) にかみあっていることを確認します。

9 ハーネスの取付け

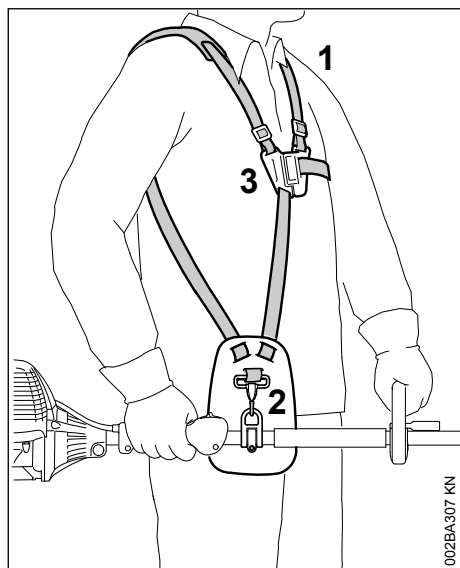
ハーネスとカラビナ (スプリングフック) のタイプとスタイルは、市場によって異なります。

9.1 肩掛けベルト



- ▶ 肩掛けベルト (1) を肩に掛けます。
- ▶ カラビナ (2) が右腰から手幅分下がった位置に来るようにベルトの長さを調整します。

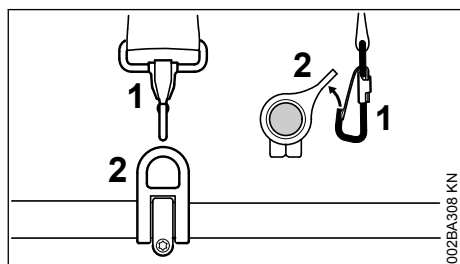
9.2 フルハーネス



002BA307 KN

- ▶ フルハーネス (1) を着用します。
- ▶ カラбина (2) が右腰から手幅分下がった位置に来るようにベルトの長さを調整します。
- ▶ ロッキングプレート (3) を閉じます。

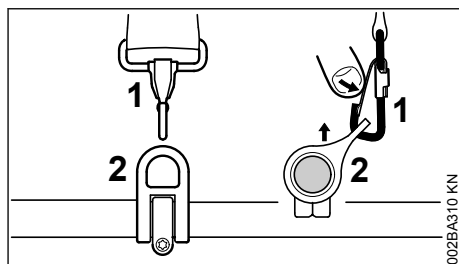
9.3 機械のハーネスへの取り付け



002BA308 KN

- ▶ カラбина (1) をドライブチューブの吊り下げ用リング (2) に掛けます - 吊り下げ用リングをしっかりと保持します。

9.4 機械のハーネスからの取り外し



002BA310 KN

- ▶ カラбина (1) のバーを押して、吊り下げ用リング (2) をカラбинаから引き抜きます。

9.5 緊急時の機械の取り外し



警告

差し迫った危険の場合、機械を素早く取り外す必要があります。非常時に備えて、機械を外して地面に降ろす練習をしてください。この練習中に本機を地面に投げ下ろして損傷しないようにしてください。

「機械のハーネスからの取り外し」の解説に従い、パワーツールをカラбинаから取り外す練習をしてください。

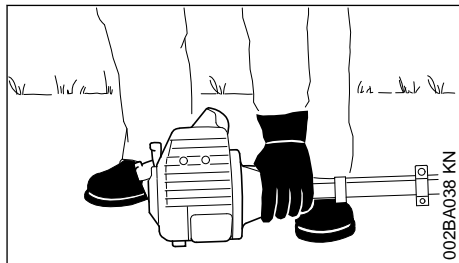
肩掛けベルトを使用している場合：ストラップを肩から外す練習をしてください。

フルハーネスを使用している場合：ロッキングプレートをすばやく開き、肩からハーネスストラップを外す練習をしてください。

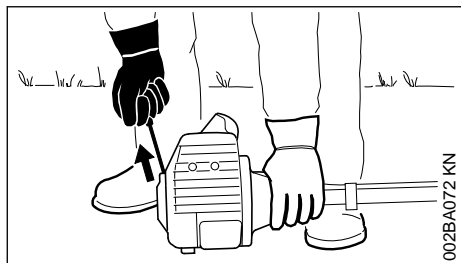
10 エンジンの始動と停止

10.1 エンジンの始動

必ずコンビエンジンと基本パワーツールの取扱説明書に従ってください。



002BA038 KN



- ▶ 機械を地面に置き、エンジンサポートとギアボックスを地面に確実に接触させます。
- ▶ 調整型カッターバー付き機種の場合: カッターバーをまっすぐになる位置 (0°) に合わせます。
- ▶ ブレード鞘を取り外します。

事故が生じる危険を低減するために、カッティングアタッチメントが地面あるいはその他の物体と接触していないことを確認します。

- ▶ 必要に応じてギアボックスを高めの支持台 (盛り土、煉瓦等) に載せます。
- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて、安定した足場を確保します。
- ▶ 機械を左手で押さえ、**確実に押し下げます** - コントロールハンドルの操作部には触れないでください - コンビエンジンまたは基本パワーツールの取扱説明書を参照してください。

注記

ドライブチューブ上に足を載せたり、ひざまずいたりしないでください。



警告

エンジンが始動するとすぐに、カッティングアタッチメントが動き始めることがあります。そのため、始動後はスロットルを軽く引きます - エンジンがアイドリング回転に戻ります。

使用中のコンビエンジンまたは基本パワーツールの取扱説明書に記載されている始動手順に従って、適正に始動してください。

10.2 エンジンの停止

- ▶ コンビエンジンまたは基本パワーツールの取扱説明書を参照してください。

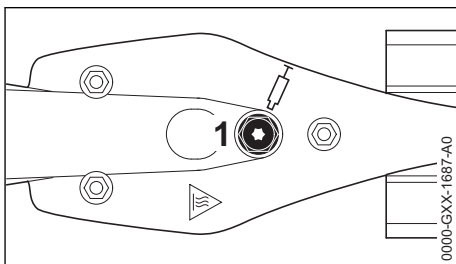
11 ギャーボックスの注油



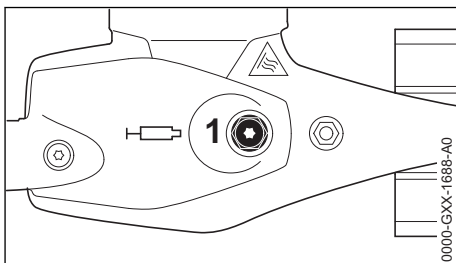
11.1 ブレードドライブギア

ブレードドライブギアにヘッジトリマー用 STIHL ギアグリースを塗布します - 「特殊アクセサリ」を参照。

11.1.1 HL 0° バージョン



11.1.2 調整可能 HL 145° バージョン



- ▶ 潤滑油量を定期的に (作業時間が約 25 時間に達する毎に) 点検してください。スクリュープラグ (1) を外します - スクリュープラグの内側にグリースが見えなくなったら、グリースチューブを注入口にねじ込みます。
- ▶ 最大 10 g (2/5 oz) のグリースをギアボックスに注入します。

注記

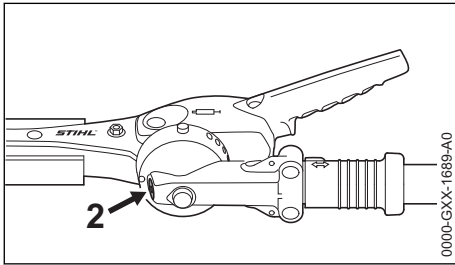
ギアボックスいっぱいグリースを注入しないでください。

- ▶ グリースチューブを注入口から外します。
- ▶ スクリュープラグを取り付け、しっかりと締め付けます。

11.2 アングルドライブギア

アングルドライブギアにヘッジトリマー用 STIHL ギアグリース (「特殊アクセサリ」) を塗布します。

11.2.1 調整可能 HL 145° バージョン



- ▶ 潤滑油量を定期的に (作業時間が約 25 時間に達する毎に) 点検してください。スクリュープラグ (2) を外します - スクリュープラグの内側にグリースが見えなくなったら、グリースチューブを注入口にねじ込みます。
- ▶ 最大 5 g (1/5 oz) のグリースをギアボックスに注入します。

注記

ギアボックスいっばいにグリースを注入しないでください。

- ▶ グリースチューブを注入口から外します。
- ▶ スクリュープラグを取り付け、しっかりと締め付けます。

12 機械の保管

30 日以上保管時

- ▶ カuttingブレードを掃除し、状態を点検し、STIHL 樹脂溶剤を吹き付けます。
- ▶ ブレード鞘を取り付けます。
- ▶ コンビツールをコンビエンジンから取り外して個別に保管する場合、埃や汚れが付着しないよう、ドライブチューブにプロテクトキャップを被せます。
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管します。子供や他の無断使用者の手の届かない場所に保管してください。

13 整備表

以下の整備周期は通常の作業条件を対象としていることに注意してください。毎日の作業時間が長い場合、あるいは作業条件が悪い場合 (非常にほこりの多い場所など) は、それに応じて、提示された間隔よりも短くしてください。

すべてのスクリューとナット

- ▶ 点検し、必要に応じて締め直します (Cutting ブレードのスクリューとナットを除く)

Cutting ブレード

- ▶ 作業開始前の目視検査
- ▶ 必要に応じて目立てします
- ▶ 損傷している場合は交換します

ギヤーボックスの潤滑

- ▶ 作業開始前の点検
- ▶ 必要に応じて補充します

安全ラベル

- ▶ 判読できない安全ラベルを交換します

14 目立ての注意事項

切れ味や切れ具合が悪くなって、ブレードが頻繁に枝に挟まる場合: Cutting ブレードを再目立てします。

Cutting ブレードは、整備工場の目立て器を使用してサービス店で目立てされることをお勧めします。スチールではスチール サービス店をお勧めします。

注記

切れ味が悪い Cutting ブレードや傷んでいる Cutting ブレードが装着されている機械で、作業しないでください。機械の過負荷の原因となり、切断状態も十分でなくなることがあります。

15 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書とコンビエンジンの取扱説明書の記述を遵守して使用すると、パワーツールの過度の磨耗や損傷が回避されます。

パワーツールの使用、整備並びに保管は、これらの取扱説明書の記述に従って十分な注意をはらって行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容および警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います:

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

15.1 整備作業

「整備表」の章に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニング

を受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

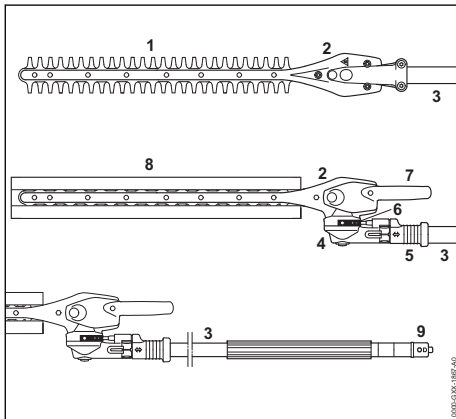
上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる当製品の損傷。

15.2 磨耗部品

カッティングブレードなどのパワーツール部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。

16 主要構成部品



- 1 カッティングブレード
- 2 ブレードドライブギア
- 3 ドライブチェーン
- 4 角度調整ギアヘッド
- 5 スライディングスリーブ
- 6 クオドラント
- 7 調整レバー
- 8 ブレードガード(鞘)
- 9 キャップ

17 技術仕様

17.1 カッティングブレード

型式： 双方向切断用ダブルエッジブレード
 ブレード長： 500 mm、600 mm
 歯間スペース： 34 mm
 歯の高さ： 22 mm

目立て角度： 水平方向に対して 45°

17.2 重量

HL-KM 0° 500 mm： 1.7 kg
 HL-KM 145° 500 mm： 2.4 kg
 HL-KM 145° 600 mm： 2.6 kg

17.3 騒音・振動数値

コンビツール HL-KM 搭載のパワーツールにおける音響値・振動値は、アイドリング回転数と最大定格回転数の運転状態を 1:4 の割合で考慮した上で測定しています。

振動に関する事業者への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

17.3.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

HL-KM	0° 500 mm	145° 500 mm 、 600 mm
KM 56 R:	95 dB(A)	92 dB(A)
KM 85 R:	95 dB(A)	94 dB(A)
KM 94 R:	95 dB(A)	93 dB(A)
KM 111 R:	93 dB(A)	93 dB(A)
KM 131:	-	94 dB(A)
KM 131 R:	94 dB(A)	94 dB(A)
KMA 130 R:	83 dB(A)	83 dB(A)
KMA 135 R:	-	81.8 dB(A)
KMA 80.0 R:	84 dB(A)	93 dB(A)
KMA 120.0 R:	84 dB(A)	93 dB(A)
KMA 200.0 R:	84 dB(A)	84 dB(A)
FR 131 T:	94 dB(A)	94 dB(A)

17.3.2 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

HL-KM	0° 600 mm
KMA 135 R:	85.3 dB(A)
KMA 80.0 R:	84 dB(A)
KMA 120.0 R:	84 dB(A)
KMA 200.0 R:	84 dB(A)

17.3.3 ISO 3744 に準拠した音響パワーレベル L_w

HL-KM	0° 500 mm	145° 500 mm、 600 mm
KM 56 R:	108 dB(A)	106 dB(A)
KM 85 R:	109 dB(A)	109 dB(A)
KM 94 R:	106 dB(A)	106 dB(A)
KM 111 R:	108 dB(A)	108 dB(A)
KM 131:	-	109 dB(A)
KM 131 R:	109 dB(A)	109 dB(A)
KMA 130 R:	94 dB(A)	93 dB(A)
KMA 135 R:	-	92 dB(A)
KMA 80.0 R:	93 dB(A)	94 dB(A)
KMA 120.0 R:	93 dB(A)	94 dB(A)
KMA 200.0 R:	93 dB(A)	95 dB(A)

HL-KM	0° 500 mm	145° 500 mm、 600 mm
FR 131 T:	109 dB(A)	109 dB(A)

17.3.4 ISO 3744 に準拠した音響パワーレベル L_w

HL-KM	0° 600 mm
KMA 135 R:	92.5 dB(A)
KMA 80.0 R:	93 dB(A)
KMA 120.0 R:	93 dB(A)
KMA 200.0 R:	93 dB(A)

17.3.5 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

HL-KM 0° 500 mm	左ハンドル	右ハンドル
KM 56 R:	7.9 m/s ²	7.9 m/s ²
KM 85 R:	6.2 m/s ²	6.8 m/s ²
KM 94 R:	6.6 m/s ²	6.9 m/s ²
KM 111 R:	6.2 m/s ²	4.2 m/s ²
KM 131 R:	6.1 m/s ²	4.3 m/s ²
KMA 130 R:	3.5 m/s ²	3.0 m/s ²
KMA 135 R:	3.7 m/s ²	3.7 m/s ²
KMA 80.0 R:	3.0 m/s ²	2.2 m/s ²
KMA 120.0 R:	3.3 m/s ²	2.6 m/s ²
KMA 200.0 R:	5.3 m/s ²	2.6 m/s ²
FR 131 T:	8.5 m/s ²	5.3 m/s ²

HL-KM 145° 500 mm, 600 mm	左ハンドル	右ハンドル
KM 56 R:	5.9 m/s ²	7.9 m/s ²
KM 85 R:	3.7 m/s ²	4.6 m/s ²
KM 94 R:	5.5 m/s ²	4.6 m/s ²
KM 111 R:	3.8 m/s ²	3.7 m/s ²
KM 131:	2.9 m/s ²	3.2 m/s ²
KM 131 R:	3.4 m/s ²	5.2 m/s ²
KMA 130 R:	2.5 m/s ²	2.3 m/s ²
KMA 135 R:	3.4 m/s ²	2.3 m/s ²
KMA 80.0 R:	3.4 m/s ²	2.3 m/s ²
KMA 120.0 R:	3.2 m/s ²	2.3 m/s ²
KMA 200.0 R:	3.7 m/s ²	2.6 m/s ²
FR 131 T:	4.2 m/s ²	2.9 m/s ²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

17.4 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com


18 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

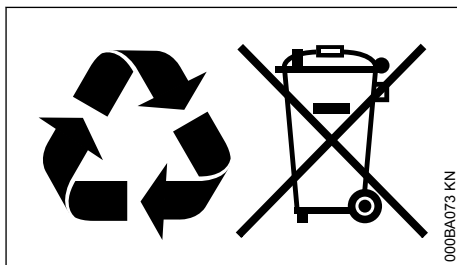
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

19 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

20 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル： コンビツール ヘッジ
トリマー
製造ブランド： STIHL
タイプ： HL-KM
シリアル番号： 4243

2006/42/EC、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 12100、EN ISO 10517 (指定されたコンビエンジンモデルと併用)

EN ISO 12100、EN 60745-1、EN 60745-2-15 (KMA 130 R と併用)

EN ISO 12100、EN 62841-1、EN 62841-4-2 (KMA 135 R、KMA 80.0 R、KMA 120.0 R、KMA 200.0 R と併用)

EN ISO 12100 (指定された背負式刈払機 FR モデルと併用)

音響出力レベルの測定値および保証値は、ISO 11094 規格を適用の下、指令 2000/14/EC の付属書 V に準拠して算出しています。

音響出力レベル測定値

KM 56 R 装備：	102 dB(A)
KM 85 R 装備：	103 dB(A)
KM 94 R 装備：	101 dB(A)
KM 111 R 装備：	101 dB(A)
KM 131 装備：	102 dB(A)
KM 131 R 装備：	102 dB(A)
KMA 130 R 装備：	93 dB(A)
KMA 135 R 装備：	92.5 dB(A)
KMA 80.0 R 装備：	93 dB(A)
KMA 120.0 R 装備：	93 dB(A)
KMA 200.0 R 装備：	93 dB(A)
FR 131 T 装備：	102 dB(A)

音響出力レベル保証値

KM 56 R 装備：	104 dB(A)
KM 85 R 装備：	105 dB(A)
KM 94 R 装備：	103 dB(A)
KM 111 R 装備：	103 dB(A)
KM 131 装備：	104 dB(A)
KM 131 R 装備：	104 dB(A)
KMA 130 R 装備：	95 dB(A)
KMA 135 R 装備：	95 dB(A)
KMA 80.0 R 装備：	95 dB(A)
KMA 120.0 R 装備：	95 dB(A)
KMA 200.0 R 装備：	95 dB(A)
FR 131 T 装備：	104 dB(A)

技術文書の保管：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年は、機械本体に表示されています。

2023 年 12 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs & Global Governmental Relations



21 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115
D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル： コンビツール ヘッジ
トリマー
製造ブランド： STIHL
タイプ： HL-KM
シリアル番号： 4243

英国規則 Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008 および Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 12100、EN ISO 10517 (指定されたコンビエンジンモデルと併用)

EN ISO 12100、EN 60745-1、EN 60745-2-15 (KMA 130 R と併用)

EN ISO 12100、EN 62841-1、EN 62841-4-2 (KMA 135 R、KMA 80.0 R、KMA 120.0 R、KMA 200.0 R と併用)

EN ISO 12100 (指定された背負式刈払機 FR モデルと併用)

音響出力レベルの測定値および保証値は、ISO 11094 規格を適用の下、英国規則「Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001, Schedule 8」に準拠して算出しています。

音響出力レベル測定値

KM 56 R 装備：	102 dB(A)
KM 85 R 装備：	103 dB(A)
KM 94 R 装備：	101 dB(A)
KM 111 R 装備：	101 dB(A)
KM 131 装備：	102 dB(A)
KM 131 R 装備：	102 dB(A)

KMA 130 R 装備 :	93 dB(A)
KMA 135 R 装備 :	92.5 dB(A)
KMA 80.0 R 装備 :	93 dB(A)
KMA 120.0 R 装備 :	93 dB(A)
KMA 200.0 R 装備 :	93 dB(A)
FR 131 T 装備 :	102 dB(A)

音響出力レベル保証値

KM 56 R 装備 :	104 dB(A)
KM 85 R 装備 :	105 dB(A)
KM 94 R 装備 :	103 dB(A)
KM 111 R 装備 :	103 dB(A)
KM 131 装備 :	104 dB(A)
KM 131 R 装備 :	104 dB(A)
KMA 130 R 装備 :	95 dB(A)
KMA 135 R 装備 :	95 dB(A)
KMA 80.0 R 装備 :	95 dB(A)
KMA 120.0 R 装備 :	95 dB(A)
KMA 200.0 R 装備 :	95 dB(A)
FR 131 T 装備 :	104 dB(A)

技術文書の保管 :

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年は、機械本体に表示されています。

2023年12月1日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations

**UK
CA****22 アドレス**

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-475-4321-D



0458-475-4321-D